

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームわかばの家		
所在地	千葉県千葉市若葉区東寺山町399-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和4年1月24日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、認知症という状態にありながらも、ご自分で出来る事は行って頂き、スタッフは必要な支援を見極めながらケアを行っています。調理、清掃、洗濯と毎日の中で役割を担いスタッフとともに行い、家庭的で暖かい環境作りに努めています。季節の移ろいを感じられるように、毎月季節にあった壁面作りを一緒に行ったり、お花や野菜作りを行っています。スタッフと一緒にのお水をあげ、育てた野菜を食事に取り入れる事もあります。また、お正月におせち料理や福笑い、夏には流しそうめんを行うなど季節にあった行事を取り入れています。毎日ラジオ体操、口腔体操を行い筋力及び嚥下機能の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、安らぎのある生活、自立支援、の三つをホームの理念として掲げ、仕事に就く前に復唱して、日々のケアで実践指導し、出来るようにスタッフ全員で努めている。また、ホームの年間目標、フロアの月間目標も定めている。フロア目標は皆で決め向上心を高めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前はみつわ台地区のお祭りに参加したり、散歩や買い物、掃除をする際に近隣の方にお会いしたら、挨拶を行っていた。コロナ禍で行っていないが、ホーム周りの清掃を行っている時は安全な距離を保ち近隣の方に挨拶を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや、ホームのイベントの際に参加を呼び掛けている。入居者、職員の家族や知人、ボランティアの方々にも参加頂いていた。コロナ禍で外部との交流は、中止している状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	千葉県保健福祉局よりの指示で書面にて開催している。あんしんケアセンター職員、民生委員、ご家族様などがより意見を頂き、定期的開催している。入居者様の暮らしぶりやイベント報告、サービス内容などを報告し、意見を聞き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面にて開催している運営推進会議にてあんしんケアセンター職員と情報交換している。高齢障害支援課に行くなど、適宜相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で教育を徹底している。千葉市の、身体拘束廃止研修には全職員の参加を促し、研修後はフロア会議で各自の認識度を確認している。尚、身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に会議を実施、半年に一度の虐待防止・身体拘束廃止研修を開催し、意識向上に努めている。ご家族の希望もあり、玄関は施錠しているが、希望者には職員がついて外出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア単位で委員会や研修を開催して、各自の理解度遅把握し教育を行い、毎日の申し送りでは異状はないか、ケア内容に手落ちや問題が発生していないか、確認を徹底している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の入居者様はいないが、日常生活自立支援事業と成年後見制度についてフロア会議で勉強会を実施し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、必ず施設での生活や暮らしぶりを見て頂いてから契約内容を説明し、書類を持ち帰って熟読して頂けることをお願いしている。尚、解約についても詳細に誤解のないようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インスタグラムを開設し、日々の様子や支援の取り組みを写真で随時アップする予定があり、自由に意見を書き込み出来る。年一回の家族会は中止。3か月ごとの運営推進会議にてご家族から意見を聞いている。また、ご来訪時にはコミュニケーションの場を持ちご意見に沿えるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務中のケアの中で職員に意見を求めたり、フロア会議や申し送りの時に意見を交換を行っている。また、半年に一度ホーム長が個別面談を行い、仕事や対人関係の悩みを聞く機械を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、勤務時間等は妥協策を話し合っている。また、資格取得や研修等のスキルアップの説明も行っている。日々の業務を見て改善や工夫面を評価の対象として人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に外部、内部研修への参加を促している。また、職務中の業務の改善策を実務を通しアドバイスしている。尚、其々の動きを把握して適材適所に配置して能力を活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社が運営している、他施設の職員と合同でリモートでの勉強会や研修会を行い交流を図っている。また、外部の研修にも参加し、新しい知識を習得し、実務の向上を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接ご本人の不安や生活への要望などを聞き取り、それらを記録して職員全員と情報共有し、本人の意思を尊重した支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得頂けるまで話し合い、見学の場を設け、安心と信頼をえられるように努めている。また、いつでも遠慮なく電話して頂けるように、コミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な施設を積極的に見学されことをおすすめしている。そして当ホームをご希望の場合は、わかばの家が提供できる事、できない事を具体的にお伝えして、ご納得の上で入居契約をして頂けるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に、フロアの掃除や、食事作り、外の掃き掃除を行い、昔の思い出話で会話を和ませたり、カラオケやYouTubeで曲を流し、三密の対策を行い一緒に歌謡曲を歌ったり、良い関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での行事への参加は現在行えていないが、各自の体調による病院受診、私的な買い物やご要望は許容な範囲でお受けし、運営推進会議の参加など積極的に関わって頂けるような働きかけを行いながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会制限を行っている。入居前に住んでいた近所の知人、馴染みの方とはオンラインでの面会、尋ねて来られたときは、玄関ドア越しでの面会をしている。また、手紙のやり取りや電話でゆっくりと話をされたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の性格や相性を旅行し、席替えを行ったり、レクリエーションを通じてぜんたいのコミュニケーションが図れるような場を設け孤立を防止できるように支している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、電話やめーるで交流があり、ご家族が来訪されお話を伺ったり、古着や古新聞など消耗品の寄付の申し出を頂いたり、ご家族のご好意を頂き良好な関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、個人へ向き合えるケアなどの際に直接聞き取るようにしている。意思疎通が難しい場合は、ご家族に相談させて頂いている。来訪時や電話など、随時、ご希望やご意見の確認を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活歴を記入シートに記入頂き、ご本人の状態は施設での生活で様子を見ながら習得等を理解し、尚且つ周囲との協調も重視し暮らしやすい環境を、職員で話し合い調整を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤時に日報と連絡ノート、往診ノートを確認することを常態化し、日々変化する一人一人の状況を把握してからケアに入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議では、ケアマネ(計画作成担当者)を中心に職員全員で話し合い、現行プランを確認、検討、変更後、ご本人とご家族に確認して頂き、ご希望やご意向を頂いた際には可能な限り取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日報と個人の介護経過記録を、日勤者と夜勤者が記録して情報を共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出対応や、ご本人やご家族からのご希望がある場合は、体調を見ながら必要とされる嗜好品(飴やチョコレート)や日用品(化粧品や尿取りパット)を提供するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域担当の警察、消防署と連携をとり、離設時の事件、事故、火災等に備えている。また、近隣のお店等にも日常の挨拶すること、こまめに利用したりするなど、緊急時に備えてご協力いただけるような関係作りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関の診察と訪問看護は毎週交互に行われ、緊急時は24時間対応になっている。また訪問歯科も必要に応じて対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	所属看護師が健康管理を行い、職員の不安や相談にも応じているため、安心して入居者のケアに従事出来ている。また医療機関とのパイプ役として24時間医療連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍以前は、入院時は出来る限り様子を見に行き情報交換をしていた。早期退院に向け、病院側とは適格な連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明し、ご希望を確認している。状態が悪化し、ホームでの看取りを希望された場合には、看取りケアに入る前に必ず看護師による勉強会を開き、職員が不安なく看取りケアを行えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携をしている看護師に急変や事故などの対応方法についての研修をして頂き、実践力を身に付け咄嗟の事態に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の日中、夜間想定防災訓練を必ず行い、消防署職員の立ち合いで行う場合は、適切なアドバイスや指導を頂いている。非常時に備え、近隣事業所などから協力を得られるように、挨拶や利用を欠かさないようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が有っても、人権を重んじ尊厳のある暮らしを実現できるような配慮を心掛けている。入居者それぞれに常に目配りを心掛けている。フロア目標で言葉かけの仕方を掲げ、定期的に会議の議題にあげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば特別食のメニューを一緒に考えたり、外食やおやつを選ぶ際に好みを聞いたりする。そして、やりたい事、やりたくない事などの本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、おやつなどは決まった時間が多いが、その中でも本人の体調や気分に合わせて時間を調整している。本人の意思に反した支援を行わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選べる方はご自分で好みの服をきている。一人で選ぶ事が難しい時は、服や化粧の好みを聞いたり、スタッフと一緒に選んでいる。外出の機会が減っているので、ホーム内での合同イベントには普段よりもおしゃれに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルに応じて野菜の皮むきや刻み、盛り付け、配膳、片づけ、洗い物などお手伝いをスタッフと一緒に会話しながら行う。特別食としてメニューも一緒に考え、ぎょうざやハンバーグ作りなどはフロアで全員が参加されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良いメニューを作っており、その指示通りに作っている。食事量、水分量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自歯ブラシを持ち、自分で磨けるように支援している。仕上げが必要な方には、その都度対応している。口腔ケアへの拒否がある方には、うがいでだけでも出来るように働きかけている。清潔を保つ為、義歯は每晚洗浄剤につけている。必要に応じ、ご家族に相談の上訪問歯科の依頼も検討する。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれる方も多いが、入居者一人一人の排尿、排便間隔のデータを参考に、声掛けや誘導をしている。定期的に声掛けを継続する事により、パットを使用しているかたは、失禁率が減少している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等、身体を動かす機会を作っている。水分量の記入を参考に調整や、乳製品を提供するなど、なるべく下剤を使用しないよう、心掛けているが、便秘傾向の入居者には看護師が根気よく下剤の調整をしてくれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、週三回の入浴を計画しているが、希望に応じて回数を増やす場合もある。入浴剤も入れて、温泉気分も味わってもらうなど工夫している。菖蒲湯やゆず湯などで季節感を味わって頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、眠気が強い時には無理して起こしておくことなく、居室で休んで頂くなど、個々の状態に合わせて支援している。自分のペースで居室で休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の症状の変化については、職員間で情報共有している。提携している薬局の薬剤師と、情報共有や相談が出来る体制になっている。誤薬の防止の為、重複して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族から生活歴を収集し、趣味や嗜好品を把握して、日常生活に取り入れ支援できるようにしている。数種類の工作やゲームの中で好みに応じた物を選び参加され気分転換を出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍で原則全て自粛中となっているが、みんなで外出計画をするときは、皆さんの意見を聞き参考にしていた。ご家族来訪時に外食されたり冠婚葬祭に出席して頂けるよう支援していた。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る入居者様には、お財布を持って貰い、自己管理して貰っている。(3千円限度)。現在は買い物には行くことが出来ないが、買い物に行かれる際はご自分で払うように支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談の上、入居者様から要望が有れば、自由に電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。電話のやりとりは居室で行いプライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気や照明はLEDを使用し、明るい環境にしている。室温は季節を感じられるように適温に調整している。居室の入り口にはご本人の表札などを飾り、判りやすくしている。廊下などには、外出やイベントの写真、皆さんで作った季節の飾りつけを行い社会と生活が隔離しないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で楽しく会話をされたり、レクリエーションを行う際は一つのテーブルに集まり行っている。椅子を多く配置しているので、席を自由に座り、限られた入居者様だけでなく色々な方とコミュニケーションを図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしていた物を自由に持ち込んで頂き、ご自分の部屋だと思い安心して生活できるようにしている。壁などの飾りや、ポスターを貼ったりするのは退去時に原状復帰して頂く事を条件に、特に制限はしていない。ベッドの位置についてもご本人、ご家族に相談し配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は段差を無くしバリアフリーとし、安全に努めている。また、リビングやテラス等は、自由に過ごして頂けるようスペースが多く有る。包丁や針などは見守りの元、その方の能力に応じ、安心して使用して頂けるように支援している。職員はヒヤリハットを学び安全対策を行っている。事故報告を通じて、再発防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと